



「今年の流行は、すっきりとした オレンジ味飲料だそうです」

ちょっと聞いてよ!

JA西日本くみあい飼料株式会社中国支店 獣医師 中尾 継幸(なかお つぐゆき)氏

人間の飲料業界では、最近ちょっとした異変が起こっているようで、従来の本物志向や健康ブームとは趣を異にし、今年は低果汁飲料に人気が集まっているそうです。その火付け役はサントリーが三月に発売開始した果汁入り炭酸飲料「オレンジーナ」で、続いてアサヒ飲料の老舗ブランド「バヤリース」も味の種類を増やすなど、飲料市場における低果汁飲料のシェアを高めています。

もともとオレンジ味の飲料は、老若男女問わず親しまれている味ですが、『果汁100%のジュースでは重いし濃すぎる』という声に対し、これら低果汁飲料は酸味と果実感がほどよくマッチした軽快な飲料として人気があるといえます。

『誰からも好まれるオレンジ味飲料』のフレーズは、人間だけではなく子牛にも当てはまるようです。カナダには面白い実験をする研究者がいるようで、子牛にオレンジ味の水を与えた



場合に、食欲・採食量や生産性などにどう影響するか、という調査がされています。その実験ではホルスタインの二十一〜二十八日齢の子牛を対象に、オレンジの着香料を添加した水を給与しました。その結果、通常の無味の水を与えた場合と比べ、一日の飲水量自体に差は

無かったものの、餌(スターター)の採食量が有意に約五割も増加し、子牛の体重増加量にも大きな差が認められたというのです。つまり水にオレンジの風味を添加することで子牛は食欲を刺激されると考えられ、この実験の結論でも「オレンジ味の水は採食量を増加させ、成長促進への手段として活用できる可能性がある」と締めくくられています。

子牛には好まれるオレンジ味の水ですが、大人の牛、つまり搾乳牛には「人

気が無い」という事実にも興味を惹かれます。

実はこのカナダでの実験では、二産目の搾乳牛に対しても同様の調査を行い、そのように言わざるを得ない結果が出ています。

実験では、同じくオレンジ味の水を搾乳牛に給与し、飲水量や生産性などを測定しているのですが、結果は子牛の場合と異なり、飲水量をはじめ採食量、また泌乳量などに、通常の無味の水との差は認められませんでした。しかもオレンジ味の水と通常の水を同時に給与し、どちらでも自由に選択できるようにすると、最初の頃こそ両方とも均等な飲水量であったものの、給与二週目になるとオレンジ味の水はほとんど飲まなくなってしまうのです。

人間において、オレンジジュースがセットになったお子様ランチを喜んで食べていた子供でも、大人になるとそのような甘い飲料より水やお茶など無味で後味の残らない飲料を好むようになる人が結構多くいます。

牛でもこれと同じ傾向があり、成長の過程とともに味覚や嗜好性は少しずつ変化していくことなのでしょう。